

## 令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和3年5月27日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

#### 4 本校の実施状況

第4学年	国語	55人	算数	55人	理科	55人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	70人	算数	70人	理科	70人
------	----	-----	----	-----	----	-----

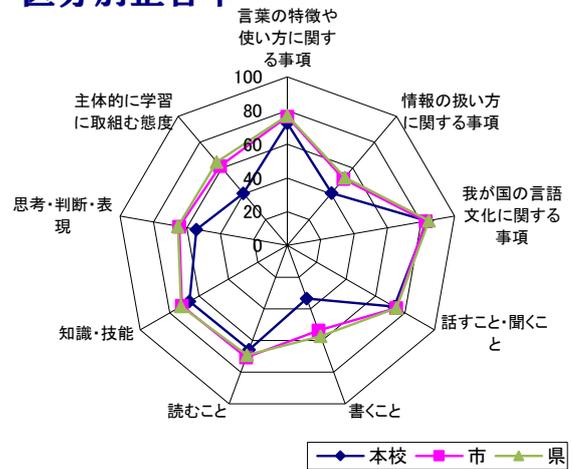
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立御幸小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	72.5	76.4	77.0
	情報の扱いに関する事項	40.6	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	83.6	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	72.7	74.1	74.2
	書くこと	33.6	53.7	57.2
	読むこと	65.8	70.7	69.2
観点	知識・技能	66.5	71.6	72.3
	思考・判断・表現	54.3	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	40.4	61.6	64.7



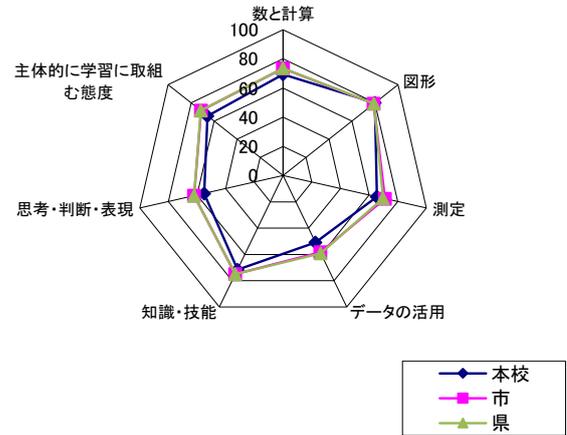
## ★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は72.5%で、市より3.9ポイント低い。</p> <p>○漢字について、平均正答率は市よりやや高く、漢字ドリルや漢字チャレンジテストで習熟を図った成果が表れてきていると考えられる。</p> <p>●「主語と述語の関係」「様子や行動を表す語彙」の理解について課題が見られる。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・繰り返し漢字練習をするだけでなく、決められた漢字を使ってテーマ作文に取り組みさせることで、文章の中で正しく漢字を使うことができるようにする。</p> <p>・「みやっ子学カステップアップシート」を活用し、当該学年で習う漢字や言葉についての定着を図る。</p>
情報の扱いに関する事項	<p>平均正答率は40.6%で、市より10.9ポイント低い。</p> <p>●それぞれの情報の内容を理解し、要約したり関係を明確にしたりすることに課題が見られる。</p>	<p>・資料を読み取る際に、考えを支える理由や事例、全体と中心の関係などについて、繰り返し指導する。</p> <p>・他教科や総合的な学習の時間などで、資料の読み取りや活用の場面を設定し、比較や分類など情報の整理について指導する。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は83.6%で、市よりやや高い。</p> <p>○漢字のへんやつくりについて、漢字練習の際に関連させながら指導してきた成果と考えられる。</p>	<p>・他教科や日常生活の中で、国語辞典や漢和辞典を活用したり、ローマ字表記に慣れ親しんだりする機会を増やし、今後も繰り返し指導する。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は72.7%で、市よりやや低い。</p> <p>●自分の考えをもち、その理由を述べることにについて、平均正答率が低かった。</p>	<p>・目的に応じた事柄を選んで話の中心が分かるように構成を考えたり、話す場面を意識して話したりする等、繰り返し指導する。</p> <p>・自分の考えを分かりやすく自信をもって伝えられるよう、ペア学習や少人数での話し合いの場面を工夫する。</p> <p>・学級活動や朝のスピーチ等、様々な場面でお互いの意見のよさ、共通点や相違点に目を向け、自分の考えを深めていけるようにする。</p>
書くこと	<p>平均正答率は33.5%で、市より20.1ポイント低い。</p> <p>●「指定された長さで文を書くこと」や「自分の考えを明確にして書くこと」に課題が見られた。また、最後の問題の記述式の作文に取り組む時間が足りず、無回答の児童が41.8%いた。</p>	<p>・相手や目的を意識して文章の構成を考えたり、理由を明確にして自分の考えをまとめたりする機会を多く設定する。</p> <p>・日記や読書活動、授業の振り返りなど、様々な機会に文章を書く経験を積み重ねるとともに、書く視点や簡潔にまとめる手立て等について指導する。</p> <p>・制限時間内に自分の意見をまとめる機会を増やすとともに、時間配分を考えた問題の解き方を助言する。</p>
読むこと	<p>平均正答率は65.8%で、市より4.9ポイント低い。</p> <p>●物語文の読み取りについて、市と同程度だったが、説明文の読み取りについては、市より低く、中心となる言葉や文章を見付け内容を要約することに課題が見られた。</p>	<p>・説明文については、段落相互の關係に着目したり、考えとその理由や事例との關係を捉えたりできるよう繰り返し指導する。</p> <p>・朝の読書タイムの充実と、積極的な図書室利用などで様々な図書に触れる機会を増やしていく。</p> <p>・「朝5分間ドリル」に継続して取り組み、読解力の定着を図る。</p>

# 宇都宮市立御幸小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.4	73.5	73.6
	図形	80.0	79.0	79.1
	測定	65.5	71.1	69.8
	データの活用	50.9	58.4	59.2
観点	知識・技能	71.6	75.0	75.0
	思考・判断・表現	55.1	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	65.7	71.4	71.6



## ★指導の工夫と改善

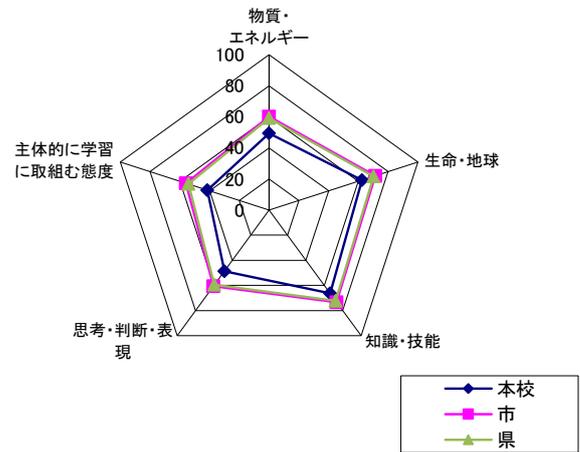
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は69.4%で、市より4.1ポイント低い。</p> <p>○計算について、繰り上がりのたし算や2桁×2桁の掛け算など、技能を少しずつ身に付けてきている。</p> <p>●分数を数直線上で表示する問題について、平均正答率は56.4%と低く、分数の意味や表し方に課題が見られた。</p>	<p>・計算では、計算ドリルやステップアップシート、AIドリル等の取組を今後も継続して行い、習熟を図っていく。</p> <p>・分数では、数直線を利用して分数の大きさを表す活動を取り入れたり、分母や分子の意味を確認したりしながら、分数の意味や表し方について身に付くようにする。</p>
図形	<p>平均正答率は80.0%で、市と同程度である。</p> <p>○円についての理解や正三角形の作図について、市の平均正答率と同程度が高い。</p> <p>●球の半径から直径を求める問題について、平均正答率は65.5%で、市より低い。</p>	<p>・図形の学習では、教科書やデジタル教科書にある立体的な図を活用する他に、作図やコマ作り、球などの具体物を用いた説明等を取り入れ、理解が深まるようにする。</p>
測定	<p>平均正答率は65.5%で、市より5.6ポイント低い。</p> <p>●重さや長さでの単位、時間や時刻についての基本的な理解が十分でない面が見られ、日常生活に生かすまでに至っていない。</p>	<p>・重さや長さの単位について、計器を活用して基本事項を確認し、他教科や日常生活との関連を図りながら生活に生かす体験を積んでいく。</p> <p>・時刻と時間について、実際の時計を活用して確認し、日常生活と関連付けながら理解を深め、生活に生かせるようにする。</p>
データの活用	<p>平均正答率は50.9%で、市より7.5ポイント低い。</p> <p>●棒グラフの読み取りや最小メモリの違いによる読み取り、また複数の棒グラフの読み取りなどに課題が見られる。</p>	<p>・身の回りにある事象を表やグラフに表すことで、データを分類整理するよさや各グラフの特徴に気付かせていく。</p> <p>・他教科や総合的な学習の時間等との関連を図り、様々な事象を分類整理したりグラフにまとめたりすることで、特徴や傾向を捉え、自分の考えを深めていけるようにする。</p>

# 宇都宮市立御幸小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	49.4	60.2	59.2
	生命・地球	62.4	71.3	70.3
観点	知識・技能	66.3	73.4	72.3
	思考・判断・表現	48.7	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	41.5	55.9	54.2



## ★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は49.4%で市より10.8ポイント低く、観点別では、「思考・判断・表現力」が低い傾向にある。</p> <p>○「電気を通す物と通さない物」「光を集めたときの明るさや温かさの関係」「風の強さと物が動く関係」の問題では、平均正答率が80%を超えている。</p> <p>●「ソーラークッカーで料理ができる理由」「糸電話の糸をつまむと音が伝わらない理由」など、光の反射や糸の振幅が音を伝える原理について十分理解できていないと言える。</p> <p>●物の重さについて、実験の結果を推測したり、考察したりすることが十分にできていないと言える。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>今後の指導の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実験活動を多く取り入れ、実験結果の推測や考察を通して、分かったことを自分の言葉やキーワードを使って説明する活動を充実させ、思考・判断・表現の力を伸ばしていく。</li> <li>・学んだことを他の事象や日常生活にも活用できるよう、「なぜそうなるのか」をじっくり考える時間を設けたり、ペアやグループで話し合ったりして、理解を深めるようにしていく。</li> <li>・AIDリルを授業の導入や振り返りの時間等に有効に活用したり宿題に出したりすることで、学習内容の確実な定着を図る。</li> </ul>
生命・地球	<p>平均正答率は62.4%で、市より8.9ポイント低い。</p> <p>○植物の育ち方やモンシロチョウのさなぎの様子についての問題の平均正答率は80%を超えている。</p> <p>●昆虫の育ち方の違いや体のつくりの特徴等についての問題では、平均正答率が低く、十分に定着していないと言える。</p> <p>●太陽と地面の様子についての問題では、表やグラフから読み取る平均正答率が低く、十分に定着していないと言える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な知識・技能が十分に身に付いていないため、「なぜそうなるか」について理由を説明できない様子が見られる。観察や実験の時間を十分にとり、視点を明確に示したりするなどして気付いたことや分かったことを友達と伝え合い全体で共有することで、理解を深めていきたい。</li> <li>・他教科との関連を図り、表やグラフを読み取る際のポイントやキーワードを押さえることで、読み取る力を付けるとともに、実際の観察や実験結果を表やグラフにまとめ考察する機会を多くとっていきたい。</li> <li>・AIDリルを授業の導入や振り返りの時間を使って有効に活用したり宿題に出したりすることで、学習内容の確実な定着を図っていきたい。</li> </ul>

## 宇都宮市立御幸小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」について、「はい」の肯定的回答は、市より高い。また、「授業の内容はよくわかりますか(国語・社会・算数・理科)」の質問は、すべての教科において「はい」「どちらかといえばはい」の肯定的回答が85%以上で、市を上回っている。日頃の授業において、宇都宮モデルを基本としてわかる授業づくりに努めている成果が表れてきたのではないかと考えられる。

○家庭学習については、「家で、学校の宿題をしている」の肯定的回答が94.6%で、少しずつ習慣が身に付いてきていると考えられる。また、「学校の宿題は自分のためになっている」の「はい」の回答は市を上回っており、自分のために学習する姿勢も育ってきている。

しかし、宿題以外の「家で、学校の授業の予習・復習をしている」や「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」の項目は、市を下回っているため、児童がより自主的に家庭学習に取り組めるよう具体的な学習方法を示したり、家庭に協力を呼びかけたりして改善に努めていきたい。

○「しょう来のゆめや目標をもっている」「家の人としょう来のことについて話すことがある」の肯定的回答は、それぞれ、90.9%、70.9%とどちらも市を上回っているが、「はい」と回答した児童は市よりも少なく、十分とは言えない。今後とも、今年度の重点目標である「キャリア教育の推進」について、学校と家庭が連携しながら児童のよさや努力を認めていけるよう努めていきたい。

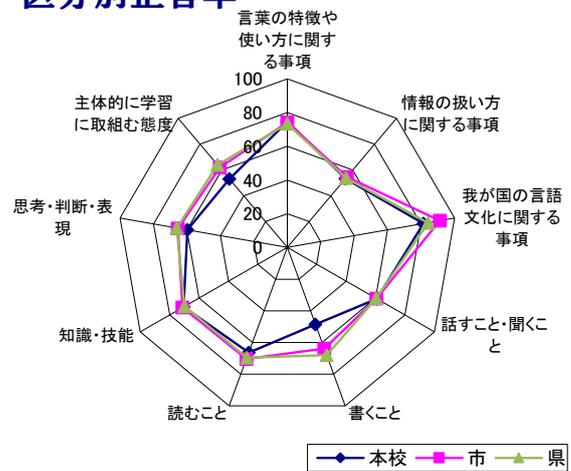
●「勉強していて『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」「本やインターネットなどを利用して、べんきょうに関する情報を得ている」の肯定的回答は、市より低い傾向にある。自ら学ぶ主体性を育むためにも、学習課題の提示の仕方や生活経験との関連、ICTの活用など、児童の興味・関心を高める授業づくりに努めていきたい。

●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」「学級活動の時間に、友達同士で話し合ってクラスのきまりなどを決めていこうと思う」などの話し合い活動について、肯定的回答が市の平均を下回っている。コロナウイルス感染予防による活動自粛も考えられるが、ICTの活用も踏まえ、何より児童が自分の意見をもてるような授業づくりに努めるとともに、発表の場を工夫し友達と意見を交換する楽しさやよさを実感できるように工夫していきたい。

# 宇都宮市立御幸小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.6	74.2	73.3
	情報の扱い方に関する事項	53.3	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	81.4	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	60.9	60.6	60.4
	書くこと	48.6	63.8	68.0
	読むこと	66.4	70.4	69.6
観点	知識・技能	70.5	71.3	69.9
	思考・判断・表現	59.8	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	53.1	61.9	64.0



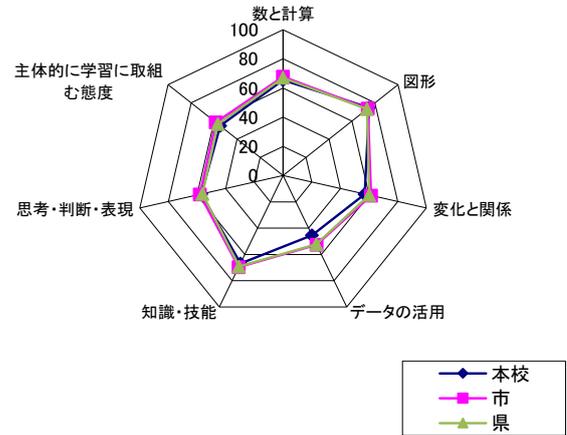
## ★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は74.6%で、ほぼ市と同等である。 ○漢字を読む問題では、9割を超える正答率だった。 ●漢字の書き取りや言葉の学習では市より約3ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・ドリルを活用して新出漢字の書き順・読み方・部首を確認してから練習を行い、ミニテストで漢字の定着を図る。 ・プリントやAドリルを活用し、前学年までの既習漢字についても復習する機会を取り入れていく。 ・文法に関しては、復習プリントを利用して、既習の内容についても繰り返し取り組むことで定着を図る。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は53.3%で、ほぼ市と同程度である。 ○情報と情報の関係について理解し、段落相互の関係を捉える問題では、市の平均正答率より約2ポイント高い。 ●情報と情報の関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話している問題では、市の平均正答率より低く、課題が見られる。	・資料を読み取るだけでなく、理由や事例などを挙げて考える場を意図的に設定し、繰り返し指導していく。 ・他教科や特別活動においても、同様に資料を活用したり読み取ったりする場面を設定していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は81.4%で、市より約10ポイント低い。 ●ことわざの意味を知り使い方を理解する問題では、市の平均正答率より約9ポイント低い。	・語彙力高めるために、言葉の意味調べなどの時間を朝学習を利用してつくる。 ・ことわざについては、3・4年生での学習の復習を取り入れられたり、辞書を活用したりすることで定着を図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は60.9%で、市の平均とほぼ同等である。 ○話し合いの内容を聞き取る問題では、市の平均正答率より約5ポイント高い。 ●話し手が伝えたいことを捉え、考えをもつ問題では、市の平均正答率より約8ポイント低い。	・授業中の話し合い活動などを通して、共通点や相違点を意識しながら聞いたり、自分の考えを話したりする活動を積極的に取り入れていく。 ・授業の中で、友達の意見や考えを自分の学びに生かせるような場面を多く設定する。 ・文章を読む際に、大切な所に線を引き、要点を整理しながら読めるようにする。 ・話を聞く際に、メモを取って聞けるように指導していく。 ・話し合いの際は、テーマに沿った話し合いができていくか振り返りながら活動させる。
書くこと	平均正答率は、48.6%で市より約15ポイント低い。 ●指定された長さで文章を書く問題や、自分の考えを理由や事例を明確にして文章を書く問題では、市の平均正答率より約18ポイント低く、文を書くことに苦手意識をもつ児童が多い。	・字数やテーマなどを決めて文章を書く機会を設ける、日記指導に取り組む、行事等の振り返りの作文指導をするなど、日常的に書く機会を増やしていく。
読むこと	平均正答率は、66.4%で市より4ポイント低い。 ●説明文の内容の読み取りについては、市より低く課題が見られる。	・朝5分読解ドリルを活用し、様々な説明文や物語文に慣れるように指導し、文章読解力を向上させていく。 ・長文の読解においては、要点に線を引いて読んだり、ノートに短い文でまとめられるようにして内容を理解させていく学習を継続し行い、長文に慣れるようにする。

# 宇都宮市立御幸小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.5	67.8	67.0
	図形	74.8	73.9	73.1
	変化と関係	56.9	61.4	60.2
	データの活用	45.4	52.7	52.1
観点	知識・技能	66.9	69.7	69.2
	思考・判断・表現	57.1	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	54.7	58.5	56.7



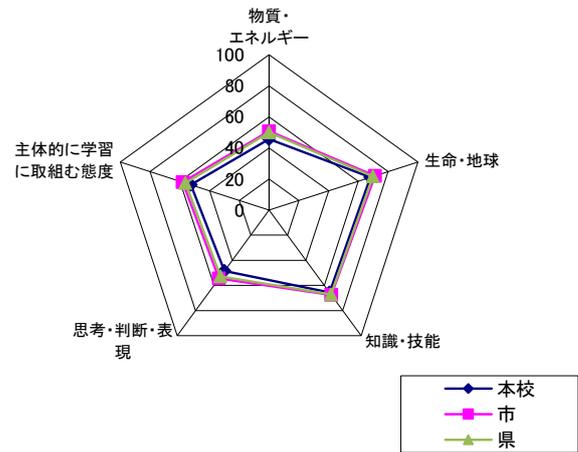
## ★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
		○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
数と計算	平均正答率は65.5%で、市より約2ポイント低い。 ○億と兆・がい数の表し方についての問題は、平均正答率が70.4%であり、市より約3ポイント高い。 ●わり算・計算のきまりの問題となると平均正答率が52.9%と低く、市より7ポイント下回っている。	・数直線や図、式、言葉などを使って、計算の意味や計算の仕方について説明する活動を多く取り入れる。 ・4年生までの復習問題や、フォローアップ問題、AIDリルを活用して、計算の習熟を図っていく。
図形	○平均正答率は74.8%で、市とほぼ同程度である。 ○角の大きさの問題は、平均正答率が75.7%で、市より約2ポイント高い。 ○面積の問題は、平均正答率が75.2%で、市より約2ポイント高い。 ●ひし形の作図の問題は、72.9%であり、県より約9ポイント低い。	・平面図形や立体の学習では、具体物を実際に観察したり操作したりする算数的な活動を通して、特徴を理解できるようにする。 ・コンパスや分度器の使い方を再確認し、朝の学習や宿題などで作図をする機会を増やしたり、作図の仕方を個別に教えたりすることで、道具を適切に使うことができるようになる。
変化と関係	平均正答率は56.9%で、市より4.5ポイント低い。 ●伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める問題では、市より約6ポイント低い。 ●基準量と比較量から求めた割合を比較して、どちらの包帯がよくのびるかを説明する問題では、市より約8ポイント低く、無回答が34.3%になるなど、苦手意識が高い傾向にある。	・問題を考える際に、数直線や図、式を使って表現できるようにする。 ・記述式の問題について、自分の考えや学習の振り返りを書く時間を十分確保するとともに、自分の考えを説明したり友達に伝え合ったりする活動を意図的に取り入れていく。 ・説明をする際に、ひな形を提示し、どのように説明すると分かりやすいか考えられるようにしていく。
データの活用	平均正答率は45.4%で、市より約7ポイント低い。 ●2つの折れ線グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する問題では、市より約8ポイント低く、無回答が35.7%になるなど、問題解決の手立てが見付からない児童が多い。	・他教科でも算数と関連付けて、表やグラフから分かることを考える活動を多く取り入れ、表やグラフを正しく読み取り、必要な情報をもとに問題を解決する力を育てる。 ・記述式の問題について、自分の考えや学習の振り返りを書く時間を十分確保するとともに、自分の考えを説明したり友達に伝え合ったりする活動を意図的に取り入れていく。

# 宇都宮市立御幸小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	45.7	50.8	50.0
	生命・地球	68.1	71.1	69.8
観点	知識・技能	65.6	67.6	67.2
	思考・判断・表現	48.4	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	52.6	58.1	56.2



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率45.7%で市より約5ポイント低い。</p> <p>○実験の結果をもとに、手作りの噴水の原理を推測する問題では、市より2ポイント高い。</p> <p>○「物のあたたまり方」で予想が正しいとした場合に得られる結果を推測する問題では市より約2ポイント高い。</p> <p>●「物のあたたまり方」の金属の温まり方を理解し、水の温まり方とともに考察する問題では、平均正答率が37.1%と低く、市より約18ポイント低い。</p> <p>●「水のすがた」についての平均正答率は市より12.2ポイント低く、水を凍らせたときの性質を説明する問題では無回答が27.1%と多かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各実験を行う前に、既習の内容から見通しを立てる場面を設け、根拠をもってその理由を一緒に考えられるようにする。</li> <li>実験や観察の結果をじっくりと考察させ、結果から考えた自分の意見を文章化させる活動を取り入れていく。</li> <li>ペア学習などで、自分の考えを話したり、友達の考えを聞く場面を多く取り入れたりする。</li> <li>日常生活との関わりにふれたり、体験的な学習活動を取り入れたらしていく。</li> <li>記述式の問題に対して、要点を押さえた回答ができるよう、学習したことを活用し必要な用語を使って簡潔に説明する機会をつくっていく。</li> </ul>
生命・地球	<p>平均正答率68.1%で市より3ポイント低い。</p> <p>○「1年間の動物の様子」のオオカマキリの季節ごとの様子に関する問題の平均正答率は67.1%で、市よりも7ポイント高い。</p> <p>○水は高い場所から低い場所へと流れて集まることを理解する問題の平均正答率は74.3%で、市よりも約5ポイント高い。</p> <p>○「自然の中の水」の結露現象に関する問題の平均正答率は85.7%で、市の平均よりも約7ポイント高い。</p> <p>●1日の気温の変化のグラフについて説明する問題の正答率は40.0%と低く、市よりも約16ポイント低い。</p> <p>●「月と星」の時間による星座の形の変化に関する問題の正答率は57.1%と低く、市よりも約13ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球から見た月や星の位置関係の把握などについては、具体物を使って基本的な知識・技能を身に付けられるようにする。また、類似問題を数多くこなすことで理解を深められるようにする。</li> <li>天気と気温の関係については、観察や実験のまとめ・振り返りを十分に行い、気温を大きく変化させる要因について話し合う機会をもつ。</li> </ul>

## 宇都宮市立御幸小学校 第5学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の復習をしている。」「テストでまちがえた問題について勉強をしている。」という質問に対する肯定的回答が県・市の平均より5ポイント高い。家庭学習の習慣が身に付き、特に理解できていないところの復習に意欲的に取り組もうとする力が育っている。宿題の出し方を工夫したり自主学習の方法を紹介したりするなどして、引き続き意欲の向上に繋げていく。

○「勉強をしていて、不思議だな 为什么呢」と感じることもある」「疑問や不思議に思うことは、わかるまで調べたい」「本やインターネットなどを利用して、学習に対する情報を得ている」「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」という質問に対する肯定的な回答が、県・市の平均より5ポイント以上高い。自分で課題に対する疑問を解決したいという積極性・自主性が育ってきているので、今後ICTを活用したり、宿題の課題提出に工夫をしたりして向上に繋げていく。

○「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられている」「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている」「授業を集中して受けている」という質問に対する肯定的回答が県・市の平均より5ポイント高い。学力向上のために授業の中で積極的に自力解決の場を設定し、問題解決のための手順や技術を身に付けたりすることで、意欲的に取り組めるよう今後も授業を工夫していく。

●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」「学級活動の時間に、友達同士で話し合っクラスのみまりなどを決めていると思う」「自分はクラスの人の役にたっていると思う」という質問に対する肯定的な回答が県・市の平均を大幅に下回っている。本校でのコロナ禍の中での対話的で深い学び活動の自粛もあると考えられるが、子ども達のクラスでの存在感に不安を持っていることも推測される。ICTを活用したり発表の場を工夫したりして、常に意見交換をし、友達の考えが共有できるよう工夫を行う。

●「自分には、よいところがあると思う」「自分の行動や発言に自信をもっている」「時間を上手に使うことを、心がけている」という質問に対する肯定的回答が県・市の平均より5ポイント以下である。コロナ禍の中、日常生活を通して多くの規制が要求されることで生活への不安・不満が生じていると思われる。授業中だけでなく、休み時間・学級活動などを利用して、多くの児童の考えをクラスで共有できる工夫を行う。

## 宇都宮市立御幸小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読活動の充実</li> <li>朝5分読解ドリルの活用</li> <li>ステップアップシートの実施(年5回全校実施)</li> <li>朝の学習の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5年生の漢字の読みは、9割を超える正答率であった。漢字の書きや計算は、県や市の平均正答率と比べ下回っている。4年生では、漢字の読み書きや計算は、県や市の平均正答率比べ高く、基礎的内容はおおむね定着している。</li> <li>2学年とも、どの教科・領域においても個人差が大きく見られた。</li> </ul>

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを述べる問題や式の意味を説明する問題では無回答が多く見られ、平均正答率が県や市より下回るものがあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童一人一人が自分の考えをもち、自分なりの方法で表現する活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業において、どの児童も自分の考えをもてるように、発問の仕方やワークシートを工夫する。また、ペア学習や1人1台端末を利用した学習を効果的に取り入れ、自分の考えを伝え合い学び合える場を設けることにより、表現力を伸ばし、考えを広げ深められるようにする。</li> </ul>